

日本産業機械工業会

国内投資意欲高まるGX・DXでさらなる成長へ

対談 ● 経済産業省 製造産業局長 伊吹 英明氏 × 日本産業機械工業会 会長 金花 芳則氏 ● 司会 ● 日本産業機械工業会 専務理事 秋庭 英人

日本経済に潮目の変化が訪れ始めている。経済安全保障の高まりを背景に国内投資への意欲は高まり、新たな成長のけん引役としてデジタル変革(DX)やグリーン・トランスフォーメーション(GX)の流れも定着しつつある。歴史的な選挙イヤーを越えて世界の潮流は変わるのか、日本は潮流に乗れるのか気になるところ、経済産業省製造産業局長の伊吹英明局長、日本産業機械工業会(産機工)の金花芳則会長に産業界の潮流や政策動向、展望などを語ってもらった。



秋庭専務理事

ポストコロナ経済再生が実質的にスタートした2024年でしたが、歴史的な選挙イヤーであり、地政学リスクの高まる動きのある1年となりました。政府におかれましては昨年をどのように振り返りますか。

◆ 伊吹局長

昨年は史上初めてGDPが600兆円を超え、民間設備投資額は一昨年に続き100兆円を超えて過去最高の設備投資を達成する見通しです。賃上げについても大企業は5%超、中小企業でも4%台を実現しており、潮目の変化が確実に見えた年であったと捉えています。一方で、地政学リスクは非常に高まっており、これまで以上にサプライチェーン全体で物事を考えなければならぬことが明らかになりました。また、半導体や蓄電池等の重要物資やGXの分野においては具体的な投資案件が現れ、経済界の積極的な取り組みが見られた1年でした。

◆ 秋庭専務理事

金花会長からも昨年の振り返りや今年の展望をお願いします。

◆ 金花会長

昨年の産業機械業界の状況ですが、当工業会の受注統計では総額が前年同期比1.7%増の2兆8162億円となり、年度上半期の受注金額としてはコロナ禍以降で最高を記録しました。経産省主催で隔年開催の海外貿易会議ですが、30回目を迎える今年は秋にスウ

エーデンとイタリアでの開催を考えています。北欧は再生可能エネルギーの普及率が高く、我々が注目しているGX関連のスタートアップや企業が多くあります。水素利用の取り組みが目覚ましく、水素還元鉄を商業ベースに乗せようとしている所もあると聞いており、是非視察し意見交換したいと考えています。イタリアはスマー

トファクトリーへの転換が進む一方で、新エネルギーにかかる取り組みも積極的です。

また、海外貿易会議の裏年に当たる今年度ですが、グローバルサウス調査を始めます。初回として、2月にインドで企画しています。インドはグローバルサウスの盟主として政治的にも市場的にも核になる国であり、初回調査にふさわしいと判断しました。

産機工内活動ですが、女性の活躍を後押しする交流会、若手技術者のエンカレッジを目的とした研究会など多様な活動を行っています。50回目を迎える優秀環境装置表彰は企業活動をしっかりサポートするため経産省にご理解・ご協力を頂戴し、水素・アンモニアなどの化石資源代替品製造装置を対象とした資源エネルギー庁長官賞を新設させていただきます。ISOを始めとする産業標準分野では、20年余りの国際標準化活動でノウハウやネットワークなどを蓄積しており、プラスチック加工機械、巻上機械、ポンプの分野では運営委員会の幹事国として国際会議の議長も務めています。これら取り組みを継続していくために、公的な活動費の助成や人的支援について、より手厚いサポートをお願いいたします。

◆ 秋庭専務理事

GX政策にかかる最近の動向についてお聞かせください。

◆ 伊吹局長

官民で150兆円超の投資を打ち出し、官では20兆円規模の先行投資支援を実施しています。日本全体のCO<sub>2</sub>排出量

の20%以上を占める鉄鋼・化学・紙パルプ・セメントといったHard-to-abate産業では、令和2年度補正予算にて造成したグリーンイノベーション(GI)基金により、水素還元製鉄技術やCO<sub>2</sub>を用いたプラスチック、コンクリートの製造技術等、技術開発の加速化や実証に向けた設備投資を支援するプロジェクトが進んでいます。また、成長指向型カーボンファイバーの実現に向け、多排出企業の参加義務化等を視野に排出量取引制度に関する法案を国会に提出予定です。これまででは投資支援が先行しており、規制・制度的措置についても企業への負担を考慮しながら少しずつ導入していくこととなります。水素関連では、価格差に着目した支援や拠点整備支援によるプロジェクトが今年から動き始めるでしょう。

◆ 秋庭専務理事

産業機械業界の取り組みは如何でしょうか。

◆ 金花会長

当会では、従来より地球温暖化対策を始めとする環境保全への対応を大きな課題であるとして捉えており、CO<sub>2</sub>排出量や廃棄物処分量の削減など会員各社とともに取り組んでいます。加えて、私が会長就任以降、水素やアンモニア活用網の実装化、実証・普及などの早期実施に向けた環境整備に貢献できる取り組みを検討しています。例えば、水素ボイラや水素ポンプなど、水素製品の早期実装に向けた課題の整理、普及に向けた広報など、より多くの会員企業に水素・アンモニア事業に関心を持っていただけるよう、川崎重工業が様々な社会課題解決に向け開設したソーシャルイノベーション共創拠点KAWARUBAなども活用して、情報収集の方法や市場環境、先行事例の紹介を進めていきたい。

◆ 秋庭専務理事

当会の脱炭素関連活動への期待や次期エネルギー基本計画の検討状況を紹介します。



金花 芳則氏

◆ 伊吹局長

産業機械業界はGXを進める主役の業界だと考えています。水素・アンモニアに關しても多くの会員企業の方々がプロジェクトを進めていると認識しています。設備や供給網のユーザーが、適切にコスト負担しなければ持続性がないため、民間だけでなく政府も引き続きサポートしなければならぬと改めて感じました。

エネルギー基本計画ですが、昨年末に案をとりまとめました。化石エネルギーへの過度な依存からの脱却を目指し、需要サイドにおける徹底した省エネや製造業の燃料転換等を進めるとともに、供給サイドにおいては、再生可能エネルギーや原子力などエネルギー安全保障に寄与し、脱炭素効果の高い電源を最大限活用することが必要不可欠と考えています。特にDXやGXの進展による電力需要増加が見込まれる中、それに見合った脱炭素電源を十分確保できるかが我が国の経済成長や産業競争力を左右する状況にあります。脱炭素電源を拡大し、我が国の経済成長や産業競争力強化を実現できないければ、雇用の維持や賃上げも困難となるため、再生可能エネルギーが原子力かといった二項対立的な議論ではなく、再生可能エネルギーと原子力をともに最大限活用していくことが極めて重要となります。

◆ 秋庭専務理事

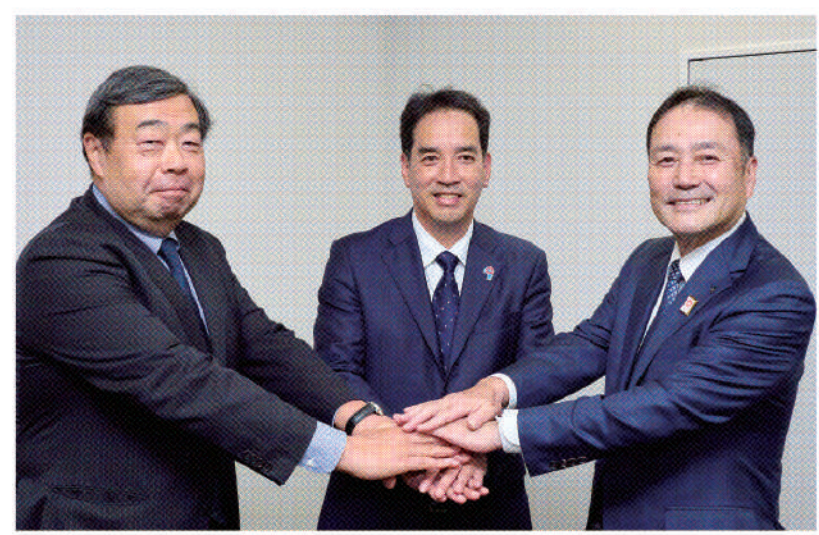
金花会長の受け止めは如何ですか。

◆ 金花会長

昨年欧州を訪問して再認識したのですが、欧州では一昨年あたりから水素・アンモニアを一気に推し進めたものの、先行しすぎて頓挫したプロジェクトが複数あります。失敗したプロジェクトはオフテーカーがついていない点が特徴です。水素活用については、高コストを補填する価格差補填に加え、CO<sub>2</sub>排出に対する罰則も整備すべきだ、という議論になっているようです。最近の欧州では、日本での水素・アンモニアの利用環境が順調に推移している理由に注目が集まっていますが、我が国は政府が水素・アンモニアの生産・流通・貯蔵・用途開発に対して一貫した支援を講じていることが功を奏しているとして評価されています。

◆ 秋庭専務理事

製造産業政策をどう進めていき



伊吹局長

製造産業局の政策は、GX、DX、経済安全保障の3つの軸に基づく取り組みが重要であると考えています。令和6年度補正予算では、サービスロボット向けのアプリケーション(応用ソフト)開発環境の構築事業や、銅やレアメタル(希少金属)といった重要鉱物の安定確保対策等に関する予算を計上しています。企業の設備投資や開発投資を支援することで、企業の収益性を上げ、賃上げや取引条件の改善による中小企業への波及につなげていきたいと考えています。今年は潮目の変化を定着させることを目指して政策を打ってまいります。

また、4月13日から大阪・関西万博が始まります。多くの方に来場いただき、その経験を友人や子供たちに伝える語り部となつていただくことを期待しています。特に若い方には是非来場いただきたいと思っています。これまでの皆様のご協力に大変感謝しています。万博の成功に向けて、引き続き協力をお願いします。

◆ 秋庭専務理事

産業機械業界の課題は如何でしょうか。

◆ 金花会長

データ連携の活用は今後の競争力の根源となるため、慌てずしっかりと取り組むべきだと考えています。経産省で整備されたウラノスコシステムは、欧州電池規制が浸透する中でとても有意義なもので、更なる発展を期待しています。一方で、情報化の推進は諸力の剣でもあり、サイバーセキュリティ対策の体制整備が非常に重要です。ただDX関連は人材が非常に不足しています。また、業界ではエンジニアの確保が困難になっていると

の声が多数聞かれています。これらは構造的な課題であります。そのほか、原材料の急激な高騰、サプライチェーン崩壊、BCP実行に際しての諸課題などが顕在化しており、政策的支援を期待します。万博について、今はSNSなどで気軽に海外の人と触れられる時代ですが、それでも一つ場所に世界中の人が集まる万博は、特別で貴重な機会です。若い方を中心に積極的に参加してもらえよう宣傳伝えています。

◆ 秋庭専務理事

産業機械業界の課題に対して、アドバイスをお願いします。

◆ 伊吹局長

貴会では、水素・アンモニア、持続可能な航空燃料(SAF)、合成燃料等について一つの技術の塊を持つている集団です。日本全体のGXを是非けん引して欲しいと期待しています。また、DX人材については、新規人材だけでは到底足りないのので、スキル標準の作成やリスクリングによる現職の方々の能力向上が必要だと考えています。

また、海外に目を向けますと、経産省では日本企業が東南アジアを中心としたグローバルサウスにGXの取り組みを展開する際に、現地企業との連携等を支援しています。こうした支援制度を活用した現地実証や、政府系金融機関の支援制度を活用しながらビジネス段階へ事業を広げるなど海外におけるGX需要を積極的に獲得いただくことを期待しています。

◆ 金花会長

局長のご指摘は非常に重要な視点です。先進国だけで脱炭素を実現してもグローバルサウスで排出していたら意味がありません。日本はアジアゼロエミッション共同体(AZEC)という仕組みがあり、欧州などからも賛賛されています。こうした枠組みを活用して、水素・アンモニア燃焼技術などをアジアに展開できればと考えています。

◆ 秋庭専務理事

本日はありがとうございました。



秋庭 英人